

のびやかWell-being保育園 自己評価

達成度判定は、A(100%-80%)、B(80%-60%)、C(60%未満)

		2023年度	
		現在の取組及び状況	今後の改善計画・目標
			判定
保育内容			
全体的な計画の作成			
1	保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	全体的な計画は、保育の方針や目標に基づいて作成している。	A
環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開			
1	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	子どもが安全で安心して生活できる環境構成に努めている。ヒヤリハット事案を職員間で共通理解し、日々の保育を見直している。	A
2	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	保育士間の会話の中で子どもの育ちや手立てが必要だと思われることに関して、個々に応じた保育に心掛けてきた。	A
3	子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。	子どもの出来る様になった姿を認めたり、一人一人の育ちに合った援助をした。また、生活習慣に関しては家庭との連携を大切にしてきた。	A
4	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	子ども達から出たアイデアを保育に取り入れ、「やってみよう」意欲を引き出せるような環境の工夫をしてきた。また、保育士と一緒に遊びを楽しむことで柔軟に環境構成を行った。	A
5	乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	家庭との連携を密にし、一人一人にあったかかわりをし、が安心して過ごせるように配慮している。また、安全に探索行動が楽しめる環境構成を行っている。	A
6	3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	自我の育ちを受け止め、自分のやりたい気持ちを大切に、保育士の丁寧なかかわりから基本的な生活習慣が身につくような配慮をしている。	A
7	3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	子どもが安心して園で生活できるように全職員で受け止めてきた。しかしながら、泣けてしまったり不安な表情を見せる子がいたため、丁寧なかかわりをしていきたい。	B
8	障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	その子にあったかかわりや環境構成を整えることで、安心して過ごせるようにしていた。また、全園関係への相談なども行ってきた。	A
9	それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	朝保育、夕保育では異年齢が交わって保育している為、危険や怪我の無いよう配慮してきた。職員間の連携を密にし、子供の体調把握等をしっかり行っていきたい。	B
10	小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	年3回の個人面談を行い、家庭での姿を聞いたり、育てたい姿を伝えたりし、保護者と同じ気持ちで子供の成長を喜び合うことが出来た。	A
健康管理			
1	子どもの健康管理を適切に行っている。	朝の受け入れ時には必ず保護者から体調の様子を聞き、受け入れを行った。子供の急な体調変化に気付けるよう、職員間で連携した。	A
2	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	年2回各検診を行った。検診の結果は保護者に伝えた。	A
3	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	園児にアレルギー対応の子はいないが、	職員間でアレルギーマニュアルを見直し、
食事			
1	食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	夏野菜の収穫やクッキング等を通して食に対する興味関心を持てるようにしてきた。	B
2	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	給食職員のアイデアで、行事食やお楽しみメニューなどを行っている。また、職員間で連携を図り、クッキングを行った。	A
子育て支援			
家庭との緊密な連携			
1	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	朝の受け入れ時や帰りの引き渡しの際に園での様子を伝えたり、連絡ノート、おうちえん等を利用して、保護者と連絡を取り合った。	A
保護者等の支援			
1	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	どの職員も保護者に積極的に話し合い、相談しやすい雰囲気作りを行ってきた。	A
2	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	全園児に視診を欠かさず行い、子供の小さな変化に気付けるようにしてきた。	A
保育の質の向上			
1	保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	自己評価やセルフチェックを行い、保育の振り返りをした。保育会議で話し合いをすることで、さらなる気づきにつながっていった。	B